



パターンⅡ【標準製造原価差異分析表】

B工場では、製品乙と丙を製造しており、標準原価計算（パーシャル・プラン）を採用している。次の【資料】にもとづいて、次の問に答えなさい。なお、製品甲の製造には材料γ、製品乙の製造には材料δを使用している。

【資料】

1. 製品乙の1個当たりの標準単価

直接材料費	標準単価	1,200円/kg	標準消費量	1kg	1,200円
直接労務費	標準賃率	1,200円/時間	標準直接作業時間	2時間	2,400円
製造間接費	標準配賦率	3,400円/時間	標準直接作業時間	2時間	6,800円
			製品甲1個当たりの標準原価（原価標準）		<u>10,400円</u>

2. 製品丙の1個当たりの標準単価

直接材料費	標準単価	500円/kg	標準消費量	2kg	1,000円
直接労務費	標準賃率	1,200円/時間	標準直接作業時間	3時間	3,600円
製造間接費	標準配賦率	3,400円/時間	標準直接作業時間	3時間	10,200円
			製品乙1個当たりの標準原価（原価標準）		<u>14,800円</u>

3. 製造間接費の予算データ

月間正常直接作業時間	12,550時間
公式法変動予算による月間の製造間接費予算	
月間固定費	23,845,000円
変動費率	1,500円/時間

4. 当月の実際生産量

製品乙：4,000個      製品丙：1,500個  
 ※月初、月末に仕掛品は存在しない。

5. 材料実際消費量と実際単価

	材料γ	材料δ
実際消費量	4,050kg	3,100kg
実際単価	1,120円/kg	470円/kg

6. 実際直接作業時間と実際賃率

実際直接作業時間：12,480時間  
 実際賃率：1,230円/時間

7. 製造間接費の実際発生額 42,600,000 円

問1 当月における標準製造原価を計算しなさい。

製品乙の標準製造原価  円

製品丙の標準製造原価  円

問2 標準製造原価差異分析表を完成させなさい。

標準製造原価差異分析表

直接材料費総差異		( )
価格差異	( )	
数量差異	( )	
直接労務費総差異		( )
賃率差異	( )	
時間差異	( )	
製造間接費総差異		( )
予算差異	( )	
変動費能率差異	( )	
固定費能率差異	( )	
操業度差異	( )	
標準製造原価差異		( )

※ただし、借方差異（不利差異）には△をつけること。

## 参考メモ【差異分析図・シュラッター図】

(材料  $\gamma$  の差異分析図)



(材料  $\delta$  の差異分析表)

